

1 月定例教育委員会 会議録		
日 時	令和 7 年 1 月 8 日（水） 午後 3 時 0 0 分～午後 3 時 3 0 分	
場 所	本庁舎 9 階 会議室 9－2	
出 席 委 員	松田教育長・市川職務代理者・末木委員・塚越委員・上原委員	
出席事務局職員	飯田教育部長・岡部教育総室長・依田生涯学習室長（歴史文化財課長兼任）・藤本総務課長・風間学校教育課長・山本学事課長・浅井教育施設課長・新堀甲府商業高等学校事務長・千野甲府商科専門学校事務長・樋田生涯学習課長・長田スポーツ課長・青木図書館長・宮崎総務係課長補佐・菱山総務係課長補佐	
傍 聴 人	なし	
署 名 委 員		
委 員 会 書 記		
・教育委員あいさつ		
・会議録署名委員の氏名 塚越委員		
・1 2 月定例会会議録の承認 原案のとおり承認		
松田 塚越 上原 市川 末木		
1 開会 松田教育長 これより 1 月定例教育委員会を開会いたします。 (1) 教育委員あいさつ 塚越委員 こんにちは。昨年は大変お世話になり、ありがとうございました。 ここ山梨では天候に恵まれ穏やかな年明けとなりましたが、昨年の能登半島地震及び奥能登豪雨の被災地の方々におかれましては、今も厳しい日々が続いていることと思います。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。 また、今年は終戦 8 0 年、阪神淡路大震災から 3 0 年となります。人々の心と生活に深い傷跡を残した出来事から学ぶとともに、自分ではない誰かから見たその出来事に対する思いに心を寄せることを大事にする一年にしたいと思います。 さて、甲府市の小中学校では明日から 3 学期が始まります。3 学期は 1 年のまとめをし、次の学年へ備える時期ですが、時として私たち大人は、それを強調し過ぎてしまっているのかもしれないと思った出来事がありました。大学の授業で小中学校の思い出をもとに学生と語り合った際、「小学 6 年生の 3 学期は中学 1 年生の 0 学期だ。」といった大人からの言葉かけに、将来への希望と成長したことへの自信を持たせるための言葉かけであると理解しながらも、今は何のため		

にあるのだろうという疑問と、将来のためだけに今を生きているわけではないという反発心を抱いたという話になりました。「教育は、一方的語りかけという病に陥っている。」というパウロ・フレイレの言葉にハッとしたことがありましたが、子どもの今に目を向けた言葉かけでなければ、かえって彼らが未来から目を背けるような状況を、大人がつくり出してしまうのだと感じました。

日々、そういった気づきを与えてくれる学生とともに学ぶことに感謝しながら、今年も私なりに身の回りにある教育問題と向き合っていきたいと思います。

最後になりますが、教育委員会の皆様の御多幸と御健康をお祈り申し上げますとともに、今後も甲府市の教育のために御尽力くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（２）会議録署名委員の指名

松田教育長

本日の会議録の署名委員は、塚越委員にお願いいたします。

（３）前回会議録の承認

松田教育長

前回１２月１６日、定例会の会議録についてですが、何か御意見、御質問はあるでしょうか。よろしいでしょうか。

【原案どおり承認】

(教育委員会承認)

２ 議事

（１）議題

松田教育長

第１号 令和７年度甲府市立図書館休館日について

資料に基づきまして、青木図書館長から説明をお願いします。

(青木図書館長から資料に沿って説明)

松田教育長

説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。

御意見、御質問はありませんか。

それでは、原案のとおり決定するということでよろしいでしょうか。

【原案のとおり決定】

(教育委員会決定)

(2) 報告

松田教育長

第1号 甲府市議会12月定例会の審議状況について

資料に基づきまして、藤本総務課長から説明をお願いします。

(藤本総務課長から資料に沿って説明)

松田教育長

説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。

御意見、御質問等はありませんか。

末木委員

「こうふ愛醸成係」の設置の経緯と取組について、教えていただきたい。

いろいろ地域でも歴史だとか文化を学ぶということをやっていて、非常に良いと思うんですけども、この係は、答弁内容にありますように、いろんな甲府の歴史、伝統文化を次代に継承し、新たなまちづくりに繋げるため、様々な記念事業を実施するということになっていて、いろんな事業をさせていただいている。

当然、地域を知ることとかは良いんですけども、例えばこういう地元のいろんな歴史や文化を知ることによって、地元の方、地域の方に良さを知っていただくということで、今一生懸命教育委員会として、いろいろ事業として歴史探訪でやっていただいて、そのあとで、それを新たなまちづくりに繋げるとなると、それを基に地域の方々が実際にまちづくりに手をつけるというか、例えばワークショップだとか、その次のステップとして、まちづくりに繋がっていくような市長部局との連携はあるのですか。

樋田生涯学習課長

現在は、31地区の自治会連合会の会長さんたちに、こういった事業がありますということを年度当初に説明をして、御活用くださいという案内をしています。

そうした中で、お申し込みがあつて、私どもも一緒に散策会を、これまで10回程度行ってきたところですけども、その後、それを市民部等で生かすという取組は、今のところないです。

末木委員

多分、教育委員会としては、それで地域のことを知っていただいて、それを基に今度は地域の皆さんが、そういうものに関してまちづくりを考えるワークショップみたいなものを開くとか、そういうものをして、具体的に地域では「こういう文化的なまちづくりしましょう。」とか、非常に良いかなと思うんですよね。

樋田生涯学習課長

公民館によっては、独自にそういったことを、公民館の主催事業として講座を開いております。

末木委員

できたらですが、教育委員会で市民部のそういう事業と繋げるようにやっていただくと、自分

の地域でこんなのがあったら、それを基に何かまちづくりできないかとか、そういう検討会とかできるかと思うんです。そうやっていくと、事業も広がってくような気がするんです。

教育委員会は一生涯懸命やっただいただいているんですけれど、そのあと繋がるような取組を是非お願いしたいと思います。

松田教育長

その他いかがでしょうか。

上原委員

来年度の中学校における性の多様性に係る教育について、質問をさせていただきます。

私は、性のあり方は、男性、女性という時代に育ってきたんですけれども、現在、人の性は身体性の性だけでなく、心の性や恋愛対象になる性など、一人一人顔や考え方が違うように、セクシヤリティも多様になっているということが分かってきました。

日本におけるLGBTQの割合も、3パーセントから10パーセントぐらいという数字を目にしたこともありますので、自分自身の身近に、そういうマイノリティの方がいないという意識ではなく、性の多様性に理解を深めていかなければと考えているところです。

そして、来年度の道徳や保健体育の教材に性のあり方や性意識についての概要が記されていることを今知りましたけれども、学校内で保護者からの自分の子どもの性意識の相談ですとか、性のあり方によっていじめがあったとか、そういう事例は現在あるのでしょうか。

家庭内でもとても難しい問題ですので、子どもの小さなサインにも対応が必要と感じておりますので、もし事例があれば教えていただきたいと思います。

風間学校教育課長

現在、市内の学校で、性自認に関わって、自分の生まれたときの性とは違う心の性を持っていて、その服装をしたいという相談があったお子さんが、実際に在籍をしています。

そのお子さんについては、周りに積極的に知らせて大丈夫だということの中で学校内で共有をし、子どもたちも共有をして、そういった意識の中で、いじめが起きないように、差別が起きないようにというような取組をしています。実際にそのことで、いじめがあったという報告は、現在は受けておりません。

このこととはちょっと違うんですが、来年度から市立中学校で第3の制服を取り入れて、もしかしたら、生まれたときの性と違うお子さんが第3の制服を着てみたいというような申し出をする場合もきっとあるのではないかなと思いますけれども、積極的に学校も相談を受け入れて、子どもたちが生活しやすいような環境は、今後もつくっていきたいと思っております。

松田教育長

よろしいでしょうか。

その他いかがでしょうか。

末木委員

性の多様性は教育していくんですけれども、教員の皆さんの性の多様性に対する理解のための

研修は、どのくらいされているんですか。

風間学校教育課長

もう既に小学校でも、今年度から使っている教科書においても、こういった性の多様性というようなことが出てきておりますし、来年度から中学校の教科書が新しくなりますが、道徳、社会科の教科書にも、そういうような内容のことが出てきています。

指導書にも、「ういったことに注意しながら指導をするように」というヒントになるような記述があり、国からもそういった関係の資料が出ています。そんなものを参考にしながら、教員も様々なことに配慮しながら、指導をしていくということになっていくかと思います。

松田教育長

よろしいでしょうか。

この件については、いかがでしょうか。よろしいですか。

別の件も含めて、御意見、御質問ありましたら、お願いします。

塚越委員

学校規模の適正化について「幼保小の架け橋プログラム」について、お願いしたいと思います。

質問ではなく、感想といいますか、お願いを申し上げたいと思います。

市町村の人口というものが、地理的な問題や中心的な産業がないことによって影響を受けていますので、文部科学省が示すような学校規模が、どの地域でも適正かつ実現可能かといえ、そうではない難しさがあるというふうに考えております。

学校の統廃合においては、通学距離や生活圏の変化が子どもとその保護者に与える影響が大きいですし、御答弁いただきましたように、学校は教育の場であるだけでなく、防災や地域の交流の場といったコミュニティの核としての機能を持つ場所でもあります。

今後も、子どもとその保護者及び地域の方の意見を大事にしながら、様々な観点から慎重に御検討いただければというふうに思います。

よろしく願いいたします。

藤本総務課長

私どもといたしましても、児童数の推計はもちろんのこと、学校の老朽化又地域の特性も踏まえながら、今後も人口減少の中で検討していかななくてはならない課題だと思っておりますので、慎重に検討して参りたいと考えております。

御意見ありがとうございます。

塚越委員

「幼保小の架け橋プログラム」について、よろしいでしょうか。

こちらも質問ではなくて、感想というかお願いなんですけれども、甲府市の幼児教育施設は民間園が多く、大規模園から小学校へ入学する場合もあれば、小規模園から1人或いは少人数で入学する場合もありますし、学校規模も様々です。山梨県としての取組はございますが、学区ごと

の傾向と、その年度の子どもの状況を基に、接続期の取組が行われていくということが大切であると思います。

また、「幼保小の架け橋プログラム」が真に子どものための接続期支援になるためには、学校にも、保育幼児教育施設にも、それぞれの文化や、大事にしている保育、教育方針があると思いますので、そういった点についての相互理解が進むことも重要であると思います。

そのためには、甲府市では教育委員会と子ども未来部という部署を越えての連携をお願いしたいと思いますし、地域の皆様にも保育幼児教育施設の取組に御支援をいただきたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

風間学校教育課長

答弁の中にも入っているとおり、来年度、塚越委員がおっしゃったように、教育委員会と子ども未来部で連携をして、本市の架け橋期のカリキュラムを作成していくための会を立ち上げていくことになっています。

そこで大枠を決める中で、最終的には小学校区ごとに小学校やその地域にある幼稚園、保育園、そういった所と連携をしながら、どういうお子さんを育てていくかという共通認識の基に、このカリキュラムをつくっていくことになると思いますので、今、御意見いただいたことなども参考にしながら、慎重に進めていきたいと思っています。

松田教育長

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、確認をいただきました。

【原案のとおり確認】

(教育委員会確認)

3 その他

松田教育長

その他ということで、よろしいでしょうか。

4 閉会

松田教育長

これをもって、1月定例教育委員会を閉会します。